



リモート プレゼンスの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [仮想 KVM の管理, 1 ページ](#)
- [仮想メディアの設定, 4 ページ](#)
- [Serial Over LAN の管理, 5 ページ](#)

仮想 KVM の管理

KVM コンソール

KVM コンソールはCIMCからアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウスの直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。サーバに物理的に接続された CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブを使用する代わりに、KVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブにマップされる実際のディスク ドライブまたはディスク イメージファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- コンピュータ上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- コンピュータ上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)
- コンピュータの USB フラッシュ ドライブ

KVM コンソールを使用して、オペレーティング システムまたはハイパーバイザをサーバにインストールし、次を実行できます。

- ブートアップ中に F2 キーを押して、BIOS セットアップ メニューにアクセスします。
- ブートアップ中に F8 キーを押して、CIMC Configuration Utility にアクセスします。
- ブートアップ中に Ctrl キーと H キーを押して、WebBIOS にアクセスし、RAID を設定します。

仮想 KVM の設定

はじめる前に

仮想 KVM を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope kvm	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # set enabled {yes no}	仮想 KVM をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /kvm # set encrypted {yes no}	暗号化をイネーブルにすると、サーバは KVM で送信されるすべてのビデオ情報を暗号化します。
ステップ 4	Server /kvm # set kvm-port port	KVM 通信に使用するポートを指定します。
ステップ 5	Server /kvm # set local-video {yes no}	ローカルビデオが [yes] である場合、KVM セッションはサーバに接続されているすべてのモニタにも表示されます。
ステップ 6	Server /kvm # set max-sessions sessions	許可されている KVM の同時セッションの最大数を指定します。 <i>sessions</i> 引数は、1 ～ 4 の範囲の整数になります。
ステップ 7	Server /kvm # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 8	Server /kvm # show [detail]	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

次に、仮想 KVM を設定し、その設定を表示する例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled yes
Server /kvm ## set encrypted no
Server /kvm ## set kvm-port 2068
Server /kvm ## set max-sessions 4
Server /kvm ## set local-video yes
Server /kvm ## commit
Server /kvm # show detail
KVM Settings:
  Encryption Enabled: no
  Max Sessions: 4
  Local Video: yes
  Active Sessions: 0
  Enabled: yes
  KVM Port: 2068

Server /kvm #
```

次の作業

GUI から仮想 KVM を起動します。

仮想 KVM のイネーブル化

はじめる前に

仮想 KVM をイネーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope kvm	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # set enabled yes	仮想 KVM をイネーブルにします。
ステップ 3	Server /kvm # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /kvm # show [detail]	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

次に、仮想 KVM をイネーブルにする例を示します。

```

Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled yes
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show
Encryption Enabled Local Video      Active Sessions Enabled KVM Port
-----
no                                yes                0                yes        2068
Server /kvm #

```

仮想 KVM のディセーブル化

はじめる前に

仮想 KVM をディセーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope kvm	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # set enabled no	仮想 KVM をディセーブルにします。 (注) 仮想 KVM をディセーブルにすると仮想メディア機能へのアクセスがディセーブルになりますが、仮想メディアがイネーブルであれば仮想メディア デバイスは切断されません。
ステップ 3	Server /kvm # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /kvm # show [detail]	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

次に、仮想 KVM をディセーブルにする例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled no
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show
Encryption Enabled Local Video      Active Sessions Enabled KVM Port
-----
no                                yes                0                no                2068

Server /kvm #
```

仮想メディアの設定

はじめる前に

仮想メディアを設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope vmedia	仮想メディア コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmmedia # set enabled {yes no}	仮想メディアをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトでは、仮想メディアはディセーブルになります。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 仮想メディアをディセーブルにすると、仮想CD、仮想フロッピー、および仮想HDD デバイスがホストから切断されます。
ステップ 3	Server /vmedia # set encrypted {yes no}	仮想メディアの暗号化をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	Server /vmedia # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 5	Server /vmedia # show [detail]	(任意) 仮想メディアの設定を表示します。

次に、仮想メディアの暗号化を設定する例を示します。

```
Server# scope vmedia
Server /vmedia # set enabled yes
Server /vmedia *# set encrypted yes
Server /vmedia *# commit
Server /vmedia # show detail
vMedia Settings:
  Encryption Enabled: yes
  Enabled: yes
  Max Sessions: 1
  Active Sessions: 0

Server /vmedia #
```

次の作業

KVM を使用して、仮想メディア デバイスをホストに接続します。

Serial Over LAN の管理

Serial Over LAN

Serial over LAN (SoL) は、IP を介した SSH セッションを利用して、管理対象システムのシリアルポートの入力と出力をリダイレクトできるようにするメカニズムです。 SoL は、CIMC 経由でホスト コンソールに到達するための手段となります。

Serial Over LAN に関するガイドラインおよび制約事項

SoL にリダイレクトするには、サーバ コンソールに次の設定が含まれている必要があります。

- シリアルポート A へのコンソール リダイレクト
- フロー制御なし

- SoL に設定されたのと同じボー レート
- VT 100 ターミナル タイプ
- レガシー OS のリダイレクトのディセーブル化

SoL セッションは、ブートメッセージなどの行指向の情報や、BIOS 設定メニューなどの文字指向の画面メニューを表示します。サーバで Windows などのビットマップ指向表示のオペレーティング システムやアプリケーションが起動されると、SoL セッションによる表示はなくなります。サーバで Linux などのコマンドライン指向の Operating System (OS; オペレーティング システム) が起動された場合、SoL セッションで適切に表示するために OS の追加設定が必要になることがあります。

SoL セッションでは、ファンクション キー F2 を除くキーストロークはコンソールに送信されません。F2 をコンソールに送信するには、Escape キーを押してから 2 を押します。

Serial over LAN の設定

はじめる前に

SoL を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope sol	SoL コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /sol # set enabled {yes no}	このサーバで SoL をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /sol # set baud-rate {9600 19200 38400 57600 115200}	システムが SoL 通信に使用するシリアル ボー レートを設定します。 (注) このボー レートは、サーバのシリアル コンソールで設定したボー レートと一致する必要があります。
ステップ 4	Server /sol # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 5	Server /sol # show [detail]	(任意) SoL の設定を表示します。

次に、SoL を設定する例を示します。

```
Server# scope sol
Server /sol # set enabled yes
Server /sol *# set baud-rate 115200
Server /sol *# commit
Server /sol # show
```

```
Enabled Baud Rate(bps)
-----
yes      115200

Server /sol #
```

Serial Over LAN の起動

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# connect host	リダイレクトされたサーバ コンソール ポートへの SoL 接続を開始します。このコマンドは、どのコマンド モードでも入力できます。

次の作業

Ctrl キーと X キーを押して SoL から切断し、CLI セッションに戻ります。



(注) SoL をイネーブルにすると、シリアルポートからの出力がリダイレクトされます。このため、Cisco IOS CLI を使用してホストのセッションに入ろうとすると、出力は表示されません。

